

東日本大震災後、当時勤務していた学校の子どもたちが、被災地のために自分たちにできることをしたいと募金という形で動いた。卒業生が先頭となり、在校生が意思を引き継いだ。

翌年2月、「ぜひ震災の様子を見てほしい」という友人の声で、大学同期の会を仙台で開催した。特に印象に残っているのが閑上地区（名取市）である。更地になった状況、津波の名残のある家、所々高く積み上げられたがれきの山。復興できるだろうか考えた。

東日本大震災から2年以上が過ぎた。閑上地区には草は茂っているものの、復興はあまり進んでいないようである。「閑上地区に戻りたい」人の割合も四分の一に減っているという。先の見通しのつかない現状に、「戻りたい」とは考えられないのであろう。

東北地方の人たちのふるさとを大切に思う心と苦難の中でも逞しく生きておられた姿を思い出すにつけ、安心安全なまちづくりと、1日も早い真の復興を願うものである。

餅つき大会・収穫祭で久々に勤務していた学校を訪れた。フィリピンを襲った台風で被害に遭われた人たちのために子どもたちが募金活動をしていた。子どもたちは自ら気づき、考え、行動する力を持っている。

震災から二年 藤井隆弘（天神町）

東日本大震災後、当時の勤務校の子どもたちが、被災地のために自分たちにできることをしたいと募金という形で動いた。卒業生が先頭となり、在校生が意思を引き継いだ。翌年二月、「ぜひ震災の様子を見てほしい」という友人の声で、大学同期の会を仙台で開催した。特に印象に残っているのが閑上地区（名取市）である。更地になった状況、津波の名残のある家、所々高く積み上げられたがれきの山。復興できるだろうかと考えた。

東日本大震災から二年以上が過ぎた。閑上地区には草は茂っているものの、復興はあまり進んでいないようである。「閑上地区に戻りたい」人の割合も四分の一に減っていると。先の見通しのつかない現状に、「戻りたい」とは考えられないのであろう。東北地方の人たちのふるさとを大切に思う心と苦難の中でも逞しく生きておられた姿を思い出すにつけ、安心安全なまちづくりと、一日も早い真の復興を願うものである。

餅つき大会・収穫祭で久々に勤務していた
学校を訪れた。フィリピンを襲った台風で被
害に遭われた人たちのために子どもたちが募
金活動をしていた。子どもたちは自ら気づき、
考え、行動する力を持っている。

震災から二年

藤井隆弘（天神町）